

平成 29 年度  
大手前短期大学  
自己点検評価報告書

平成 29 年 11 月

## 目次

1. 大手前短期大学及び大手前学園の沿革及び概要	
(1) 学校法人及び短期大学の沿革	3
(2) 大手前学園の概要	6
(3) 大手前学園の組織図及び大手前短期大学の構成	7
2. 学生データ	8
3. 立地地域の人口動態	9
4. 学習成果について	11
5. 学生支援	13
6. 就職支援	20
7. 英語教育（海外研修等）	25
8. FD活動	26
9. 編入学委員会	28
10. ボランティア・地域貢献活動	29

## 1. 大手前短期大学及び大手前学園の沿革及び概要

### 【学校法人大手前学園の沿革】

学校法人大手前学園は、第二次大戦終結直後の昭和 21 年 4 月、学園創始者・藤井健造が大坂府から指定校の認定を受け、大坂城大手前近くに大手前文化学院を開校したことがはじまりである。戦後日本の復興・再建を担うに足る有能で情操豊かな新時代の女性の育成を目指したものであった。当初は財団法人であったが、昭和 26 年、学校法人大手前女子学園として認可を得て、同年 4 月、大坂市東区大手前之町(現在の中央区大手前 2 丁目、大坂大手前キャンパス)に大手前女子短期大学を開校した。昭和 41 年には、西宮市御茶家所町(現在のさくら夙川キャンパス)に大手前女子大学を開学した。

その後、昭和 61 年に短期大学を学園発祥の地・大坂大手前から兵庫県伊丹市(現在のいたみ稲野キャンパス)に移転するとともに、大手前文化学院を大手前栄養文化学院専門学校に改称した。また、学園創立 50 周年・大学開学 30 周年にあたる平成 8 年に大学院文学研究科を開設している。

平成 12 年には法人名を現在の大手前学園に改称するとともに、大手前女子大学を大幅に改組・拡充し、男女共学の大手前大学として新たなスタートをきった。また大坂大手前のキャンパスでは、平成 14 年に当時の大手前栄養製菓学院専門学校から製菓課程を分離・独立させ、大手前製菓学院専門学校を開校した。いたみ稲野キャンパスでは、平成 16 年に大手前女子短期大学を地域総合科学科構想の下に改組をし大手前短期大学と改称、男女共学のライフデザイン総合学科として生まれ変わった。平成 28 年には 2 つの専門学校を再び統合し、大手前栄養製菓学院専門学校とした。

現在は、「さくら夙川」・「いたみ稲野」・「大坂大手前」の 3 つのキャンパスに 3 つの高等教育機関(大学、短期大学、栄養製菓学院専門学校)を擁し、卒業生 5 万人を超える総合教育機関として発展を遂げている。

昭和 21(1946)年 4 月	大坂府の指定校として認定を受け、大手前文化学院を創設
昭和 22(1947)年 4 月	大手前文化学院開校、初代学院長に藤井健造が就任
昭和 26(1951)年 2 月 4 月	学校法人大手前女子学園設立(藤井健造理事長) 大手前女子短期大学開学
昭和 30(1955)年 4 月	大手前文化学院に栄養部設置(栄養専門学校の前身)
昭和 41(1966)年 4 月	西宮市に大手前女子大学開学、文学部哲学科・英文学科を設置
昭和 61(1986)年 4 月	大手前女子短期大学を伊丹市に移設、学園のカレッジアイデンティティを導入、新スローガン「STUDY FOR LIFE」を制定 大手前文化学院を大手前栄養文化学院に改称
平成 3(1991)年 4 月	西宮総合グラウンド竣工、専門学校の大阪新学舎完成

	福井秀加理事長就任
平成 8(1996)年 4 月	大手前女子学園創立 50 周年、大手前女子大学創立 30 周年 大学の新学舎竣工、大学院文学研究科開設
平成 10(1998)年 4 月	大学院文学研究科に博士後期課程設置
平成 12(2000)年 4 月	学園名称を学校法人大手前学園に改称 大手前女子大学を大手前大学に名称変更し、男女共学化するとともに、文学部 1 学部から人文科学部・社会文化学部の 2 学部制に改編
平成 14(2002)年 4 月	大手前栄養製菓学院から製菓課程を独立させ、大手前栄養学院と大手前製菓学院の 2 校に分離
平成 15(2003)年 3 月	大学・史学研究所竣工
平成 16(2004)年 4 月	大手前女子短期大学を共学化、大手前短期大学とする
平成 17(2005)年 4 月	福井有理事長就任 大学院文学研究科を比較文化研究科に名称変更 大手前栄養学院創立 50 周年
平成 18(2006)年 4 月 10 月	大手前学園創立 60 周年記念事業を展開(～平成 21 年 3 月)。 学園連合同窓会開催
平成 19(2007)年 4 月 6 月	大手前大学の 2 学部を、総合文化学部、メディア・芸術学部、現代社会学部の 3 学部に変更 大学・メディアライブラリーCELL 施工
平成 22(2010)年 3 月 4 月	日本高等教育評価機構による認証評価で大学が「認定」 大手前大学現代社会学部に通信教育課程を開設
平成 25(2013)年 8 月 9 月	福井有理事長逝去 福井要理事長就任
平成 27(2015)年 3 月	日本高等教育評価機構による認証評価で大学が「適合」と認定
平成 28(2016)年 4 月 9 月	大手前大学健康栄養学部管理栄養学科を設置 大手前栄養学院と大手前製菓学院を大手前栄養製菓学院に改組・改称 大手前学園創立 70 周年・大手前大学創立 50 周年 大手前大学大学院創立 20 周年記念式典を挙げる

### 【大手前短期大学の沿革】

大手前短期大学は、上述の通り昭和 26 年に大手前女子短期大学(服飾科、のちに服飾学科に改称)として開学して以来、学園の主要校の 1 つとして成長し、昭和 61 年に現在の伊丹市へキャンパスを移転した。秘書科の設置(平成元年)や服飾学科から生活文化学科への改

称(平成3年)、コース制の導入(平成12年)などを経て、平成16年に大手前短期大学と改称し男女共学制に変更すると共に、地域総合科学科としてのライフデザイン総合学科への改組を行い大幅なカリキュラム改革を実施した。その基本コンセプトである「ユニット自由選択制®」に基づく教育プログラムは受験生からの支持を得て、学生確保の実績をあげてきた。

平成28年には短期大学は創立65周年を迎えた。開学以来輩出してきた卒業生の数は2万4千人を超え、同窓会から積極的な支援を受けるとともに、地元と連携した活動でも支持を受けるなど、広く卒業生・地域からも愛される短期大学として発展している。

平成29年には、それまでの「ユニット自由選択制®」を基礎に据えて、さらに発展したカリキュラムとして、7つのコースを設置し、コース自由選択制を導入した。

昭和26(1951)年4月	大阪市東区大手前之町に大手前女子短期大学(服飾科)開学
昭和44(1969)年4月	服飾科を服飾学科に改称
昭和61(1986)年4月	大阪大手前から、伊丹市稲野にキャンパス移転
平成元(1989)年4月	秘書科を設置
平成3(1991)年4月	服飾学科を生活文化学科に改称
平成12(2000)年4月	生活文化学科をファッションデザインコース、住生活コース、秘書ビジネスコースの3コース制に改編し、秘書科の募集停止
平成13(2001)年4月 9月	大手前女子短期大学創立50周年 秘書科を廃止
平成14(2002)年4月	カリキュラムの改編とともに、コース名称をファッションビジネスコース、住生活コース、情報ビジネスコースに一部変更
平成15(2003)年4月	新たに製菓マネジメントコースを設けて4コース制に変更
平成16(2004)年4月	大手前女子短期大学を大手前短期大学に名称変更し、男女共学化 地域総合科学科構想に基づくライフデザイン総合学科に改組(コース制は廃止)、生活文化学科の募集停止
平成18(2006)年3月	生活文化学科を廃止
平成20(2008)年3月	短期大学基準協会による認証評価で「適格認定」
平成21(2009)年7月	文部科学省「大学教育・学生支援事業〔テーマB〕学生支援推進プログラム」に「C-PLATS®導入と企業情報提供の精緻化による就職支援強化策」が採択
平成22(2010)年9月	文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に「学生別コンピテンシー伸張の可視化」(大手前大学との共同事業)が採択
平成23(2011)年4月	大手前短期大学創立60周年記念事業を展開(～平成24年3月)

平成 26(2014)年 3月	短期大学基準協会による認証評価で「適格認定」
平成 28(2016)年 4月	大手前短期大学創立 65 周年
平成 29(2017)年 4月 6月	コース自由選択制 導入 広島文化学園短期大学との短期大学間相互評価の公表 (相互評価の実施は平成 28 年度)

(2) 大手前学園の概要

学校法人大手前学園が設置する教育機関の名称、所在地、入学(編入学)定員、収容定員及び在籍者数は、平成 29 年 5 月 1 日現在で次の通り。

(単位：人)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
大手前大学	(さくら夙川キャンパス) 〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町 6-42 (いたみ稲野キャンパス) 〒664-0861 兵庫県伊丹市稲野町 2-2-2 (大阪大手前キャンパス) 〒540-0008 大阪市中央区大手前 2-1-88	670 (編入) 2 年次 12 3 年次 13	2,754	2,256
大学院 比較文化 研究科	(さくら夙川キャンパス) 〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町 6-42	前期課程 10 後期課程 3	29	9
現代社会学部 通信教育課程	(さくら夙川キャンパス) 〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町 6-42	500 (3 年次編入) 500	3,000	1,450
大手前 短期大学	(いたみ稲野キャンパス) 〒664-0861 兵庫県伊丹市稲野町 2-2-2	250	500	422
大手前 栄養製菓学院 専門学校	(大阪大手前キャンパス) 〒540-0008 大阪市中央区大手前 2-1-88	栄養学科 80 管理栄養学科 80 ※1	栄養学科 160 管理栄養学科 192	349
		製菓学科 120 ※2	240	63

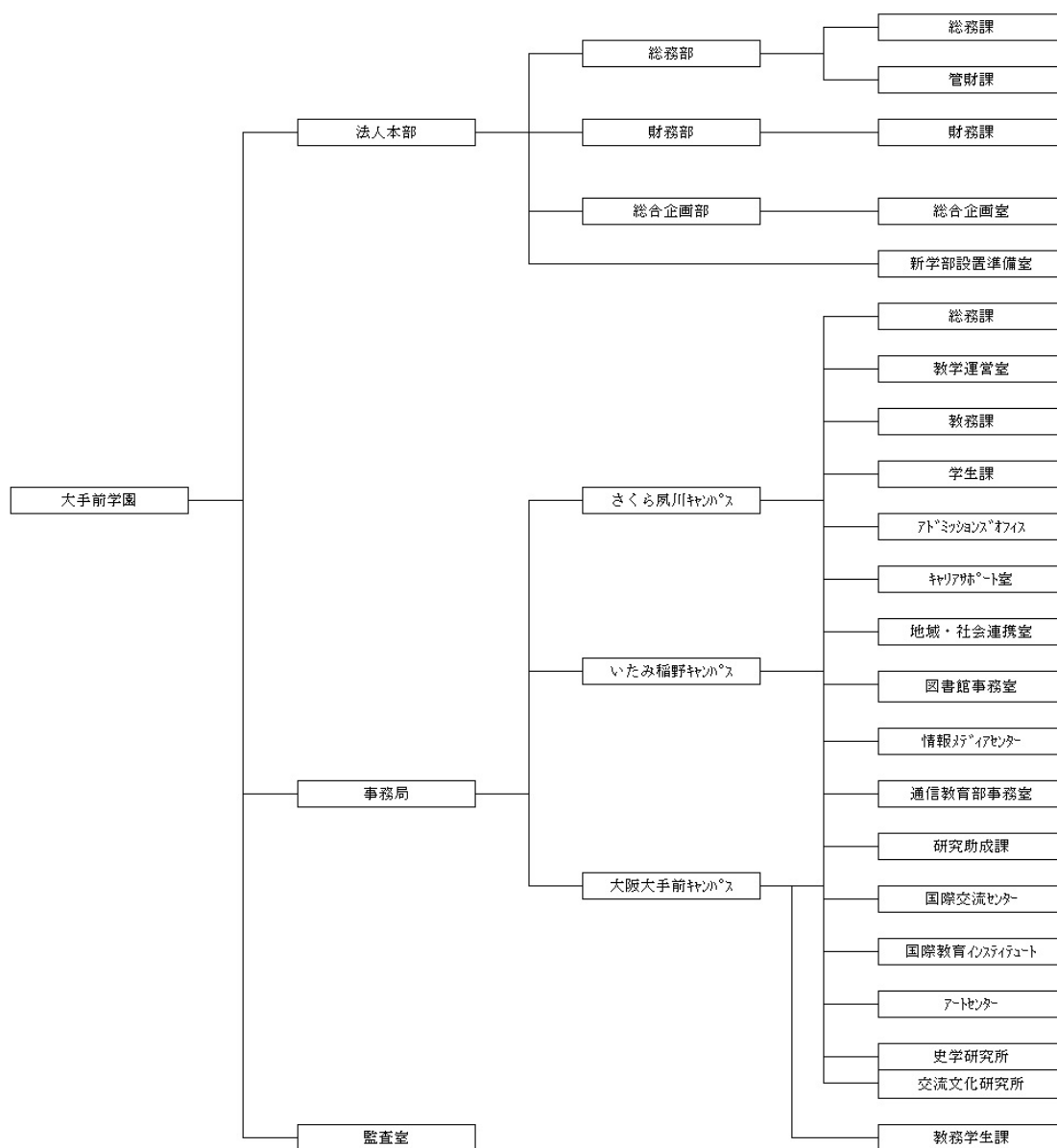
※1 管理栄養学科は平成 28 年度より募集停止 ※2 製菓学科は平成 29 年度のみ募集停止

(3) 大手前学園の組織図及び大手前短期大学の構成

学校法人大手前学園の事務組織は【図 1】の通りである。

【図 1 大手前学園事務組織略図】

学校法人大手前学園事務組織略図



平成 29 年 5 月 1 日現在の専任教職員数及び非常勤職員数は次の通りである。なお、大手前短期大学の所在地いたみ稲野キャンパスは、大手前大学との共用(主に大学 1 年生が学ぶ)

であり、事務職員は短期大学と大学の双方の業務を兼務しているが、在籍学生数などにより短期大学・大学の専任担当者を振り分けている。

・専任教員数(単位：人)

教 授	准教授	講 師	助 教	計
8	5	1	0	14

・非常勤講師数(単位：人)

62
----

・専任事務職員数・非常勤職員数・兼務職員数(単位：人)

	短大専任職員	非常勤職員	兼務職員	計
男性	5	1	4	10
女性	6	3	10	19
計	11	4	14	29

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

## 2. 学生データ

① 入学定員、入学者数、入学定員充足率、収容定員、在籍者数、収容定員充足率

(単位：人、%)

学科等の名称	事項	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
ライフデザイン総合学科	入学定員	250	250	250
	入学者数	227	219	197
	入学定員 充足率(%)	91	88	79
	収容定員	500	500	500
	在籍者数	439	455	424
	収容定員 充足率(%)	88	91	85

② 卒業者数(単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ライフデザイン総合学科	189	182	194

③ 退学者数(単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ライフデザイン総合学科	42	21	34



④ 休学者数(単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ライフデザイン総合学科	3	2	2

⑤ 就職者数(単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ライフデザイン総合学科	139	141	146

⑥ 進学者数(単位：人)

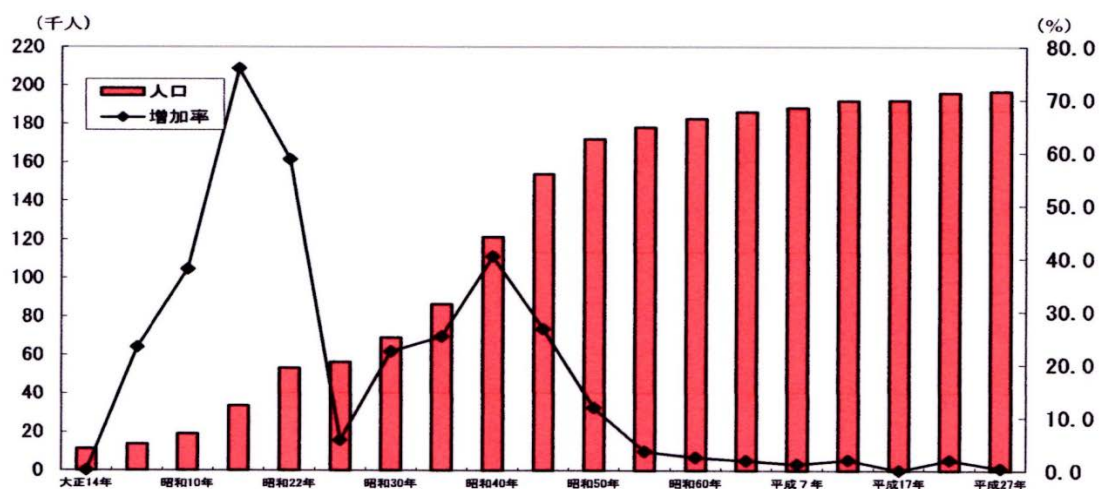
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ライフデザイン総合学科	14	11	17

### 3. 立地地域の人口動態

大手前短期大学が立地する伊丹市は兵庫県の南東部(阪神間)に位置し、伊丹空港(大阪国際空港)敷地の大半を擁する人口約 20 万人の大阪・神戸の衛星都市で、ベッドタウンの 1 つである。

周囲を兵庫県の尼崎市、西宮市、宝塚市、川西市、大阪府の豊中市、池田市と接しており、市内を阪急電鉄伊丹線と西日本旅客鉄道(JR 西日本)福知山線(宝塚線)が南北に通り、大阪市内始発駅から 10km 余りと近距離にある。こうした地理的要因もあり、本学がキャンパスを移転した昭和 61 年ごろに 182 千人ほどであった市の人口は、平成 28 年版の伊丹市統計書によれば、196,947 人となっており、約 15 千人(約 8.2%)増加している。【表 1】

【表 1 伊丹市の人口及び人口増加率の推移】 (伊丹市統計書平成 28 年版より)



この地域は、古くは摂津国の西摂と呼ばれ、東に猪名川、西に武庫川と2つの大きな川が流れ、市域は全体に平坦で起伏のなだらかな地形(沖積台地の猪名野)である。気候が温暖で、冬には奈良時代に僧・行基が開いたとされる昆陽池などにカモなど多数の渡り鳥が飛来する。

南北朝から戦国時代は伊丹城(有岡城)の城下町として発展、また一説に「清酒発祥の地」とも言われた。江戸時代には伊丹郷町を中心に酒造業が盛んとなって樽廻船で江戸に送られ、「伊丹の清酒」として評判となった。またこの時代、酒造家たちの間では文芸が流行し、上方の文化人も集うなかで太くたくましい「伊丹風俳諧」が興り、全国に知られた(伊丹の醸造家出身の上島鬼貫は、独自の俳風を確立する)。こうした歴史を有し、古くから人・モノ・文化・情報の交流拠点として栄えた土地柄で、現在も市内に史跡(国指定史跡の有岡城跡、同重要文化財の醸造を営んでいた旧岡田家など)や資料館・施設が点在する。

地元の産業としては、清酒醸造や園芸(全国三大植木産地の1つ)といった伝統的産業の他、近年では空港のある利点を生かして精密機器の製造・販売拠点としてハイテク産業などが市内に工場を構えている。さらに大規模商業施設がターミナルに隣接して開設されるなど消費地に近い特性を生かした流通業・商業も盛んである。

【図1 短期大学所在の伊丹市の全体図】

伊丹市全体図(出所:『伊丹市市勢要覧』)



市民活動も活発で、「まちづくり活動」「ボランティア活動」「趣味の活動」といった文化と活力を生み出す市民の力があり、本学からも学生がクラブ活動やボランティアで地域の祭事などに参加し、あるいは商業施設でのインターンシップなどで交流と連携を深めている。

本学のあるいたみ稲野キャンパスは、こうした「歴史」「文化」「自然」に恵まれた伊丹市の南部にある。すぐ南が公園・スポーツ施設を挟んで尼崎市の大規模商業施設「つかしん」に接しており、阪急伊丹線稲野駅から徒歩1分、JR西日本福知山線猪名寺駅からは徒歩5分と近く、通学や学生生活において極めて便利な場所にある。

伊丹市内に国公立の大学・短期大学はなく、私立校3校（そのうちの2校は本学と大手前大学である）があるのみで（高等学校は県立校4校、市立校2校がある）、本学は地元の高教育機関として、行政をはじめ各種団体・企業との連携、地域住民活動への参加、施設の開放・提供、人材の供給など様々な分野で役割を担っており、地域と共存する大学であることを目指して、日頃から努力している（昭和61年の本学伊丹市移転以前には、昭和50年以來の伊丹市による有岡城跡・伊丹郷町の発掘調査に大手前女子大学（現大手前大学）も加わり、発掘調査報告書を公表してきた）。

過去5年間の入学生の出身地別人数及び割合は【表2】の通りで、地元近畿圏（中でも兵庫県・大阪府）出身者の割合が継続して高いのが特徴である。

【表2 学生の入学動向】（単位：人、%）

地域	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
北海道	1	0.4	7	3.2	4	1.8	1	0.5	1	0.5
東北	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
関東	3	1.3	2	0.9	2	0.9	1	0.5	2	1.0
中部	7	3.1	5	2.3	3	1.3	2	0.9	7	3.6
近畿	196	85.2	182	82.3	190	83.7	193	88.1	160	81.2
中国	12	5.2	11	5.0	15	6.6	15	6.8	12	6.1
四国	7	3.1	5	2.3	8	3.5	3	1.4	5	2.5
九州・沖縄	3	1.3	7	3.2	1	0.4	3	1.4	5	2.5
その他	1	0.4	1	0.4	4	1.8	1	0.5	5	2.5
計	230	100.0	221	100.0	227	100.0	219	100.0	197	100.0

※中部は甲信越エリア、北陸エリア、東海エリアの合計。

#### 4. 学習成果について

大手前短期大学は、「実社会に則した実務教養教育を通じて、学生一人ひとりが自らの目的を見つけ、その目的に向けての目標を定めそれを実現させる力」を養成し、社会が求

める有為な人材を教育することを使命としており、「目標に向かってチャレンジする自立した学生」を育てることを目標としている。

こうした本学が目指す学習成果を達成するため、学生一人ひとりが身につけるべき、実社会の求める基礎力として 6 つの能力を選定し、それを本学の育成すべき「C-PLATS®」というコンセプトにまとめている。この「C-PLATS®」により、全科目を通じて学生の能力伸長に取り組んでいる。

「C-PLATS®」は、次のように定義している。

C - Communication(コミュニケーション力)

- ・相手を理解し自分の考えをわかりやすく伝える力

P - Presentation(プレゼンテーション力)

- ・自分の考えをまとめて発表する力

L - Language Skill(言語能力)

- ・決められたテーマについて論理的に表現する力

A - Artistic Sense(芸術的センス)

- ・芸術作品、デザインへの理解力と創造活動を通じて行う表現力

T - Teamwork(チームワーク)

- ・集団での自分の役割がわかり協力し合える力

S - Self Control(自己管理能力)

- ・自分の感情を冷静におさめ、行動できる力

シラバスには、各授業科目の「到達点、学習成果」の項目を設け、担当教員が期待する到達度を明示するとともに、その授業で重点的に育成する「C-PLATS®」の内容を記載して、学生の理解を助けるように工夫している。学生はこれを基に自己評価し、伸長度が確認できる。

また、学生のキャリア育成のために必要な力をつけるよう、1年次の必修科目において基礎学力向上を支援して次のような指導を行っている。

- ・国語・数学の基礎学力テスト実施と補習
- ・図書・文献検索などの指導
- ・アクティブ・ラーニングの活用による C-PLATS®の能力の育成

また、実務教養型短期大学を目指すべくカリキュラム改革を行い、平成 29 年度より「コース自由選択制」を中心とした新たなカリキュラムを導入した。このカリキュラムにより学生は

- ・体系的専門知識・技術の修得
- ・実戦的な基礎ビジネス知識・能力の修得
- ・社会人としての基礎力の修得

を目指すことができる。

## 5. 学生支援

### (1) 平成 28 年度の取り組み

「学生一人ひとりが自らの目的に向けての目標を定め、それを実現させる力を育成させる」という使命に基づき、学生生活支援を組織的に行っている。

学生サービスや厚生補導を担当する常設委員会として学生委員会を設置している。大手前短期大学と大手前大学がキャンパスを共用しており、学生支援については共通案件も多く、大学との合同委員会となっている。合同委員会の下に、短大・大学それぞれに小委員会を設け、夏期休業期間を除き、毎月開催している。構成メンバーは学生部長の他、短期大学3名、大学7名の教員及び学生課職員3名である。

平成 28 年度の具体的な活動内容としては、喫煙に関すること・駐輪マナー・薬物乱用防止の啓蒙ポスターの作成及び掲示を行った。合わせて、学内の定期的な見回りを実施し直接学生の指導を行った。近年利用者が増えている SNS の利用についての注意喚起を、ウェブ上に公開している。また、近年の自転車事故の多発を受け、平成 28 年度新入生、特に自転車・バイク通学の学生に向けて交通安全講習会を実施した。そのほか地球温暖化による夏の猛暑での熱中症対策講習会を、課外活動団体・一般学生対象に実施した。

学生委員会の下に、課外活動活性専門部会、健康保健管理部会、学生支援専門部会を置いている。課外活動活性専門部会は、課外活動団体への助成金支援や執行部への指導などを担当し、健康保健管理専門部会は、健康相談室、学生相談室の管理運営や要支援学生への支援、発達障害に関する勉強会の企画・実施を担当している。学生支援専門部会は、本学の奨励金制度の運営や学生生活アンケート等の企画・実施を担当している。また、専門部会は学生委員に、他の委員会の委員も加わり、幅広い視野からの学生支援を行っている。

一方、学生課と教務課は協力し、学生サービスセンターとしての役割を担っている。内容は、修学・学生生活・課外活動・交友関係や経済的支援等の窓口として、入学前の手続きから奨学金や学費納入、入寮・課外活動・アルバイトなど、学生の具体的な相談に幅広く対応している。“One to One” をモットーに掲げ、関係職員が学生一人ひとりにきめ細かく対応している。

【表 3：平成 28 年度学生委員会開催実績】

開催日	主な議題
平成 28 年 4 月 12 日 (火) 短大小委員会	・「学生委員会」構成について ・学園奨励金第一種奨励金給付候補者について ・英語特待生継続申請に関する再審査について ・障がい学生支援規定に基づく合理的配慮について ・その他報告
平成 28 年 5 月 10 日 (火) 短大小委員会	・委員会活動計画について ・大手前短期大学 60 周年記念奨励金候補者選定について

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい学生支援規定に基づく合理的配慮の決定について</li> <li>・男女バレーボール部の合併について</li> <li>・その他報告</li> </ul>
平成 28 年 6 月 7 日 (火) 短大小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大手前学園奨学金候補者選定について</li> <li>・短大保護者会開催について</li> <li>・課外活動関連報告</li> <li>・その他報告</li> </ul>
平成 28 年 7 月 5 日 (火) 学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度保護者懇談会実施要項について</li> <li>・課外活動特別助成について</li> <li>・平成 27 年度学生アンケート結果について</li> <li>・熱中症対策講習会実施報告</li> <li>・その他報告</li> </ul>
平成 28 年 9 月 5 日 (火) 学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大手前学園私費外国人留学生授業料減免について</li> <li>・課外活動団体の移動について</li> <li>・学生訃報について</li> <li>・学生懇談会実施報告</li> <li>・保護者懇談会について</li> <li>・大手前学園創立 70 周年記念奨学金について</li> <li>・課外活動関連報告</li> <li>・甲子園ボウルについて</li> <li>・その他報告</li> </ul>
平成 28 年 10 月 4 日 (火) 短大小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大手前学園創立 70 周年記念奨学金」応募状況について</li> <li>・学園奨学金について</li> <li>・保護者懇談会実施報告</li> <li>・健康に関する報告書に係る件について</li> <li>・学内マナー向上啓発ポスターについて</li> <li>・学費滞納者の現状について</li> <li>・大手前祭の進捗状況について</li> <li>・その他報告</li> </ul>
平成 28 年 11 月 1 日 (火) 短大小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大手前学園奨学金受給候補者選定について</li> <li>・大手前学園利子補給奨学金の応募資格の改正について</li> <li>・学生寮の閉寮期間の取り扱いについて</li> <li>・障がい学生支援規定に基づく合理的配慮の決定について</li> <li>・課外活動団体の授業直後の教室利用について</li> <li>・女子寮アンケートについて</li> <li>・その他報告</li> </ul>

平成 28 年 12 月 16 日 (火) 短大小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大手前学園奨学金受給候補者選定について</li> <li>・ 外国人留学生特別入試受験者対象入試特別奨学金制度について</li> <li>・ 大手前祭報告</li> <li>・ 伊丹クリーンキャンペーン実施報告</li> <li>・ 学生生活アンケートについて</li> <li>・ その他報告</li> </ul>
平成 29 年 1 月 6 日 (金) 学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大手前学園奨学生の再選定について</li> <li>・ 学生生活アンケート(案)について</li> <li>・ 学園奨励金・学生功労賞の推薦について</li> <li>・ 卒業式典について</li> </ul>
平成 29 年 2 月 7 日 (火) 短大小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大手前学園奨励金受給候補者選定について</li> <li>・ 学生功労賞選定について</li> <li>・ 大手前学園利子補給奨学生候補者選定について</li> <li>・ 学費未納者への督促について</li> <li>・ リーダーズキャンプについて</li> <li>・ その他報告</li> </ul>
平成 29 年 3 月 7 日 (火) 学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入試特別奨学生継続に関する取扱い基準の改正について</li> <li>・ 入試特別奨学生資格継続について</li> <li>・ 英語特待生資格審査について</li> <li>・ 強化団体の認定に関する細則について</li> <li>・ 強化団体の認定について</li> <li>・ 各学園奨学金の家計基準の見直しについて</li> <li>・ 「私費外国人留学生授業料減免」に関する取扱い基準の見直しについて</li> <li>・ 大手前大学・大手前短期大学障がい学生受け入れガイドラインの追記事項について</li> <li>・ 大手前短期大学障がい学生支援規定の追記事項について</li> <li>・ 学園奨学金の規定の改正について</li> <li>・ その他報告</li> <li>・ 平成 28 年度学生員会活動概要</li> </ul>

学生生活の支援活動の中で、クラブ活動や学園行事などは、大学・短期大学の合同の委員会として活動している。

平成 28 年度現在、公認の課外活動団体としては、体育会 14 団体（公認 13 団体、準公認 1 団体）、文化会 19 団体（公認 18 団体、準公認 1 団体）があり、専任教員が各団体の顧問

とし、積極的な活動と自主的な運営を行っている。

また、これらの課外活動団体の代表者による課外活動委員会が組織され、毎月第四金曜日の昼休みに、連絡会議を行っている。毎年2月に、次年度のリーダー候補が一堂に会し、親交と結束を固めている。リーダーシップ養成のためのリーダーズキャンプは、平成28年度は課外活動委員会が企画・運営を行っている。8月には音楽系の6団体の新しい試みとして、学外ホールで「NATSUOTO FEST」を開催し、12月には大学アメリカンフットボールの日本一決定戦甲子園ボウルに協力参加している。その他に、新入生歓迎会、新入部員勧誘のための冊子・ポスター作成等の課外活動活性化のための支援・助言を行っている。

なお、大手前大学・短期大学は、課外活動への助成や支援も積極的に行っている。

【表4：クラブ所属学生数（平成26年度～28年度）】（単位：人）

	平成26年4月	平成27年4月	平成28年4月
短大生	50	43	47

【表5：クラブ別所属学生数（平成28年4月）】（単位：人）

クラブ名	人数	クラブ名	人数
フットサル部	3	演劇部	3
ダンス部	1	美術部	2
バスケットボール部	3	バドミントン部	3
女子ラクロス部	1	硬式テニス部	1
男子ラクロス部	3	文芸部	1
バレーボール部	2	軽音楽部	3
アコースティックサウンド部	6	JAZZ 研究部	3
音楽部	9	生協学生委員会	2
大手前祭実行委員会	1		
		総合計	47

（重複掲載）

主たる学園行事としては、11月の大手前祭と4月のさくら祭がある。これらは大手前祭実行委員会を組織し、学生が企画から運営までを行っている。

多目的コートと体育館は授業やクラブが使っていないときは、学生に開放し、自由に使えるようにしている。

学生食堂は、授業のある期間委託業者による食事の提供を行っている。また、大手前大学・短期大学の学生・教職員の出資による「大手前大学生活協同組合」の売店があり、教科書・文具・書籍等の販売から、パンや弁当・菓子類の飲食物も販売している。喫食のための学生ホールには、給茶器や自動販売機を設置している。また、学内にも給茶器を設置



し、学生は湯茶を自由に利用できるようになっている。教室棟の入り口ホールや中庭には、椅子とテーブルを設置し、学生の休息や語らいの場として提供している。

短期大学・大手前大学共通の女子寮として、民間の施設を借り上げて寮として運営している。管理運営は管理人を 24 時間配置し、寮規則に基づいて管理を行っている。平成 28 年度には長期休暇中の寮の閉寮期間の改正を行い、残寮許可願い提出によって残寮を許可し、学生の利便性を図った。また、適時女子寮アンケートを実施して、より良い寮の運営を心掛けている。男子学生や入寮できない女子学生のためには、下宿・アパート等の宿舍の斡旋を、大手前大学生生活協同組合に委託している。

【表 6：学生寮入寮状況(平成 28 年 4 月現在)(単位：名)】(定員 40 名)

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	計
短大	5	12	—	—	17
大学	6	2	0	2	10

キャンパスは、私鉄駅から 1 分以内、JR 駅から 5 分以内の好立地にあり、通学に至便である。そのうえで、学園バスをいたみ稲野キャンパスとさくら夙川キャンパス・西宮浜グラウンド間を常時運行して、施設の共有・学生の交流・クラブ活動のために便宜を図っている。

また、駐輪場とバイク専用駐車場を設置し、所定の要件を満たした者に対して自転車及びバイク通学するを許可している。なお、自動車通学については、障がい等、特別な場合を除いて原則禁止している。

昨今の社会情勢や経済状況の悪化に伴い、多くの学生が日本学生支援機構の奨学金を利用している。

一方、大手前独自の奨学金として、学業成績が優秀で経済的困窮者に対して、「大手前学園奨学金」を、若干名に給付している。加えて、「学園創立 70 周年記念奨学金」として、卒業年次生のみを対象に、学業成績が優秀でありながら、経済的理由で秋学期学費の納付が困難である者に対して、学則に定める秋学期学費相当額を給付している。加えて、「短大創立 60 周年記念奨学金」として、卒業年次生のみを対象に、学業成績が優秀でありながら、経済的理由で春・秋学期学費の納付が困難である者に対して、学則に定める春・秋学期学費相当額を給付している。そのほか、「大手前学園奨励金」として、スポーツ・文化活動などの課外活動における成績優秀な個人、または団体を対象に、推薦されたものについて学生委員会で判定したうえで若干名に給付している。

その他に、国の教育ローンや学園が提携している金融機関の教育ローンを紹介するとともに、教育ローン利用者には、「学園の利子補給奨学金」も実施している。なお、教育ローン以外にも、提携金融機関の学費サポートローンも用意している。

これらの学費納付に当たっては、学費納付規定に基づき、必要な手続きを経て延納・分

納ができるようになっている。

【表 7：平成 28 年度 奨学金の取得状況】

奨学金の名称	学内・ 学外の別	給付・ 貸与の別	支給対象 学生数 (人) (a)	在籍学生 総数(人) (b)	在籍学生数 に対する比 率 a/b*100	月額支給総額 (円)	年間支給総額 (円)
日本学生支援機構 第一種奨学金	学外	貸与	68	455	15%	1,621,000	
日本学生支援機構 第二種奨学金	学外	貸与	160	455	35%	5,982,500	
日本学生支援機構 入学時特別増額貸与奨学金	学外	貸与	33	455	7%	58,333	
大手前学園奨学金	学内	給付	5	455			960,000
大手前学園利子補給奨学金	学内	給付	3	455			42,736
大手前短期大学創立 60 周年 記念奨学金	学内	給付	4	455			1,833,000
大手前学園創立 70 周年記念 奨学金	学内	給付	1	455			247,500
入試特待生	学内	給付	3	455			2,160,000
兵庫県私費外国人留学生奨学金							
日本学生支援機構 留学生受け入れプログラム							

学生の健康管理のため、健康相談室を設置し、常時 1 名の看護師が勤務している。メンタルヘルスケアやカウンセリングのために学生相談室を設置し、予約制で臨床心理士が対応している。健康相談室と学生相談室は隣接し、メンタル面での相談が多くを占める学生相談室への入退室は、健康相談室からも入退室ができ、学生が利用しやすいように工夫している。

【表 8：学生相談室利用件数状況（平成 26 年度～平成 28 年度）】（単位：人）

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	1 年生	2 年生	1 年生	2 年生	1 年生	2 年生
男子	0	0	0	0	0	0
女子	11	13	6	4	5	1
合計	11	13	6	4	5	1

【表 9：健康相談室利用件数状況（平成 26 年度～平成 28 年度）】（単位：人）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
男子	9	10	10
女子	146	127	153
合計	155	137	163

学生の生活実態及び満足度を調査するため、学年末の 2 月に、1 年生を対象に学生生活アンケートを実施している。調査結果は、教授会や職員の事務連絡会に報告し学生支援のあり方を検討する資料としている。

現在、短期大学における留学生はフォーラム・ゼミナールに所属しており、担任教員がきめ細やかな対応をして学生生活を支えている。留学生の支援担当部署としては、学生課と国際交流センターが担っており、学習支援や生活支援を行っている。また、国際交流センター事務室の隣には、留学生・学生・教職員が交流するランチルームを設けている。そのほか、日帰りのバス旅行やクリスマスなどの企画をして、留学生が孤立しないよう工夫をこらすとともに、一般学生にも語学学習・異文化交流の機会になるように考えている。

短期大学では、高校新卒者以外に対する入試として、社会人入試を実施しているが、平成 28 年度は 2 名である。

また、障がいを持った学生に対しては、障がい学生受入ガイドラインを作成し、その方針のもとで対応をし、受験時においては、受験特別措置を設け、学生募集要項及びホームページに事前に相談するように明記し、個人の状況により、受験前・入学前に個別面談を実施している。入学手続き時においては、健康カードに障がい申告のある保護者を対象に、入学前面談を促す文書を送付している。そのうえで、面談希望がある場合は、面談を実施している。面談は、本人及び保護者と、学生部長・学生課長・教務課長・臨床心理士・看護師・教職員の中から、学生部長の指名したものが行う。障がい者受け入れ対策として、緊急連絡網の整備・教職員への周知の在り方・ノートテイク等一般学生が可能な支援の在り方などの検討や研修を重ねている。該当する学生とは常にコンタクトをとり、学生生活を送る上での問題点や悩み、要望などを聞き取り、「障がい学生支援規定に基づく合理的配慮」の決定を、速やかに対応できるよう心掛けている。障がいを持った学生にはエレベーターの使用を認めている。

本学では3年制の長期履修生制度を設けている。これは、週に3日通学し、3年間で短期大学を卒業するシステムである。経済的な面からも学費負担の不公平がなく、1年間に支払う金額が軽減される。月・火・金曜日コースと、火・水・木曜日コースがあり、学生が個々の状況に合わせて計画的に学べるようにしている。

この長期履修生については、「フォーラム」担当教員が、カリキュラム・時間割など履修について対応している。1年次の「フォーラム」担当教員が引き続き2年次も担当し、3年次の「ゼミナール」担当教員に引き継ぐことで、学生が学業半ばでつまづくことのないように図っている。

【表 10：多様な学生の受け入れ状況（平成 26 年度～28 年度）】（単位：人）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	計
留学生	0	0	1	1
社会人	0	0	2	2
帰国子女	0	0	0	0
障がい者	0	1	2	3
長期履修生	10	20	41	71

地域貢献ボランティア活動として大学と受け入れ団体が協定書を交わした活動の参加者に対し、単位認定を行っている。平成 28 年度は、伊丹市立こぼと保育所ボランティア、積木制作、JR 猪名寺駅構内のディスプレイ展示ボランティア、障がい者施設アイ愛センターボランティア、伊丹警察署 OTM 隊防犯ボランティア（単位認定なし）に参加している。

## (2) 今後の課題

学生委員会並びに学生課では、多様な学生に対応できるように、担当教職員のスキルアップをするとともに、他の教職員に対しても、研修会や講習会の開催を通して対応能力を身につけていく努力を重ねている。しかしながら、入学してくる学生の生活環境や個人的状況、資質は、多様複雑化してきており、新たな案件や場면을テーマにした研修会や講習会を継続的に開催し、どのような場合においても適切かつ早期の対応ができるようにする必要はある。

また、短大・大学合同の学園行事・課外活動への短期大学生の参加が年々減少している現状を考え、短期大学生の考えや意見を集約できる窓口の設置が早急に必要と考える。

## 6. 就職支援

### (1) 平成 28 年度の取り組み

「教職員が一体となって学生一人ひとりの能力開発と育成に取り組む」というカリキュラムポリシーに基づき、進路支援を組織的に行っている。進路支援の教職員組織としては、

副学長・学科長を含む教員5名とキャリアサポート室職員4名で構成する就職委員会が担当している。委員会は、原則として月1回開催し、進路に関する支援策を協議・実行している。初回の4月度委員会においては、前年度の総括報告と新委員会メンバーによる新年度の目標設定や役割確認を行い、5月以降の委員会では、1年生と2年生とに分けての支援計画、及びその実施について検討している。

【表11：平成28年度就職委員会開催状況】

開催日	主 な 議 題	
4月5日	前年度総括および卒業生の進路決定状況について	本年度支援体制および進路登録票の配布・収集について
5月9日	求人案内とゼミ連携について	「ライフデザイン論」の内容について インターンシップの支援計画について
6月7日	支援イベントの計画と活動状況について	インターンシップの説明および募集について
7月5日	活動状況と求人状況について	進路ガイダンスの実施計画について
9月1日	秋採用の状況と支援方法について	「キャリアプランニング」の概要について
10月4日	活動状況と学内説明会について	平成29年度開始予定のキャリア科目について
11月1日	業界説明会について	集中ガイダンスの実施について
12月6日	進路現況調査について	適性検査とSPI対策講座について
2月7日	特別ガイダンスについて	模擬面接会と合同企業説明会について
3月7日	卒業生に対する進路調査について	就職活動直前対策と進路登録票について

また就職委員会では、「C-PLATS®」の運用や内容の検討も行っている。

そのほか、「ライフデザイン論」「キャリアプランニング」「キャリアベーシック」などのキャリア関連科目において、モチベーションの熟成とともに、就職情報の提供なども含めて、教職員が連携して取り組んでいる。

また、ゼミナール担当教員に対し、週ごとに有力な求人情報を提供するとともに、学生の就職活動や内定状況などについて、就職支援システムである「就カツくん」を活用して緊密に情報交換を行い、進路決定率の大きな向上につなげている。この「就カツくん」のシステムは、平成27年度から試験的に導入し、平成28年度から本格的に教員・職員が連携して活用を行っている。本システムは、教員が授業や面談から得た学生の進路に関する情報を入力し、一方で、キャリアサポート室が面談・指導内容を入力することにより、教職員が情報を共有したうえで、より充実した進路支援をするものである。

この教職員一体となった取り組みにより、本学の就職内定率は「就職に強い短期大学！」をキャッチフレーズに、平成22年度以降着実に向上を続け、平成28年度においては就職希

望者に対して96.7%となった。職業に直結する専門資格課程を持たない地域総合科学科としては、特筆すべき数値である。

【表12：平成28年度進路決定状況】（平成29年5月1日現在）

項目 / 男女		平成 28 年度		
		男	女	合計
卒業生(人)		5	189	194
	就職希望者(人)	2	149	151
	進学希望者(人)	3	15	18
	その他(人)	0	25	25
内定者(人)		2	144	146
内定率（対卒業生）		40.0%	76.2%	75.3%
内定率（対就職希望者）		100.0%	96.6%	96.7%
進学決定者(人)		3	14	17

【表13：3年間の進路状況推移】

年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
卒業生数(人)	189	182	194
就職希望者数(人)	148	147	151
就職希望率	78.3%	80.8%	77.8%
就職者数(人)	139	141	146
就職率	73.5%	77.5%	75.3%
内定者数(人)	139	141	146
内定率（対卒業生）	73.5%	77.5%	75.3%
内定率（対希望者）	93.9%	95.9%	96.7%
進学者数(人)	14	11	17
進学率	7.4%	6.0%	8.8%

キャリアサポート室には、パソコン10台、求人票一覧掲示板、業種別・職種別求人ファイル、会社パンフレット、就職活動体験記や就職関係図書などを常備し、個別相談が可能な個室も4室設けている。また、キャリアカウンセラー資格を有する2名を含め、専任職員3

名と契約職員1名が在籍している。

具体的な就職支援としては、1年次の春の必修科目「ライフデザイン論」から、秋学期には、選択科目「キャリアプランニング」「キャリアベーシック」を開講している。内容は以下のように、就職へのモチベーションの熟成や就職活動のための知識・マナー・スキルをはじめ、就職に関わる文書作成力・プレゼンテーション力の育成などである。

【表14：平成28年度「キャリアプランニング」】

	主 な 内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	仕事・就職先について知る
第3回	自分自身を表現する STEP 1
第4回	自分自身を表現する STEP 2
第5回	ハッピーになれる働き方・仕事を探してみよう
第6回	履歴書作成 STEP1
第7回	履歴書作成 STEP2
第8回	情報収集の仕方
第9回	エントリーシート作成
第10回	就職活動のマナー(企業訪問編)
第11回	グループディスカッション面接
第12回	グループ面接
第13回	個人面接と就職ガイダンス
第14回	個人面接と就職ガイダンス
第15回	就職活動のマナー(電話対応・文章編)、就職活動のアクションプラン

【表15：平成28年度「キャリアベーシック」】

	主 な 内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	敬語の基礎〈尊敬語と謙譲語〉
第3回	敬語を活用してみよう〈敬語表現の実践〉
第4回	話しことばとコミュニケーション①〈伝えたいと思う気持ち〉
第5回	話しことばとコミュニケーション②〈傾聴スキルについて〉
第6回	話しことばとコミュニケーション③〈LのリードとRのリード〉
第7回	書きことばとコミュニケーション①〈言葉に敏感になる〉
第8回	書きことばとコミュニケーション②〈構成を考える〉
第9回	書きことばとコミュニケーション③〈対象を分析する〉

第10回	プレゼンテーションにチャレンジしよう〈ホワイトボードを相棒に〉
第11回	プレゼンテーションに向けて〈準備〉
第12回	プレゼンテーション発表会①〈Aグループ〉
第13回	プレゼンテーション発表会②〈Bグループ〉
第14回	プレゼンテーション発表会③〈Cグループ〉
第15回	プレゼンテーション大会〈合同授業〉

また、1年次春学期から個別面談を行い、学生一人ひとりの入学時における状況を把握するとともに、筆記試験対策としての特別講座もスタートする。一方、平成24年度から開催している公開型面接練習会は、面接試験に強いストレスを感じる学生が、精神的な強さを身に付けて積極的に就職活動に踏み出す良いきっかけづくりとなっている。

2年生対策としては、具体的な求人案内や個別相談、就職試験直前指導に時間を掛けてじっくりと取り組んでいる。その一方で、未活動の学生や就職活動を休止している学生に対して、ゼミナール担当教員と連携をとりながら一人ひとりにアプローチを行い、就職活動がスムーズに進むように徹底した個別指導を行っている。

一方、インターンシップ活動については、科目としての単位認定を行うことで参加意欲を高め、多くの1年次生が積極的に参加している。このインターンシップ活動は、企業での仕事を体験することにより、職業選択の動機付けと視野の拡大を図るものである。内容は、事前の授業において対象企業及び業界についての調査・分析をすることと、終了後に、その活動に対するレポートをまとめ、インターンシップに参加した全員と協力企業にもご臨席いただき、それぞれの成果をプレゼンテーション大会として発表している。平成28年度の参加者は65名である。

基本的な就職試験支援として、筆記試験対策を入学直後から長期間に渡って行っている。スタートは入学前オリエンテーションで基礎学力の確認ワークブックを配布・実施し、それを踏まえて、1年次の必修科目「フォーラムA・B」において、リメディアル教育として国語と数学の補習を実施している。また、同じく必修科目の「ライフデザイン論」では適性検査を実施し、その解説・指導を行っている。そのほか、秋学期の「フォーラムB」では、SPIやWebテストを実施するとともに、その対策も行っている。

また、就職活動の後方支援として、保護者との連携を強めることの重要性を考え、保護者向けに「就職戦線の現状と支援について」の説明会を、年2回開催している。

資格取得に関しては、合格率80%を超える2級医療秘書やMOS Word及びExcel検定をはじめとして、難関といわれる二級建築士や医師事務作業補助者など、各種検定試験は、関連科目の授業でしっかりと対策を講じて高い成果をあげ、就職率の向上に寄与している。

## (2) 今後の課題

社会体験としてのインターンシップは、学生にとって貴重な機会であり、今後このイン



ターンシップの内容の充実を図っていくことが進路支援の一つの方向性とする。

単なる見学やマナー研修、あるいはアルバイト的労働力とならないように、インターンシップの受け入れ企業の開拓とともに、相互の目的と要望を綿密に打ち合わせ、単位認定に値する充実したものとしていかなければならない。

一方、地域連携活動がますます重要視されていく中で、地域連携を念頭においた体験学習を進めることも今後一層重要となってくる。学生が地域社会における問題を発見し、創造的な発想と行動を自発的に行える社会性を身に付ける企画を推進していくことが、今後の進路指導の一つになるものとする。

## 7. 英語教育（海外研修等）

### (1) 平成 28 年度の取り組み

独自の英語学習である LE0 (language Education of Otemae の略称) や海外留学でグローバルなスキルが伸ばせるように、授業科目と海外体験を主とした実践的教育を行っている。LE0 の特長はネイティブスピーカーの教員による少人数制、英語で学ぶ英語、週 5 日開講されるレベル別クラスというものである。それによってレベルの高い学生だけでなく、基礎から学ぶ学生や英語が苦手な学生にも対応でき、授業内容をきめ細かくチェックしながら運営を行った。その結果、レベル 1～3 のクラスで履修者の延べ人数は増加の傾向にあり、140 名に達している。

また、海外留学については、学生の語学力・国際感覚の向上をめざし、専任教員を含む国際交流委員会において研修内容を検討後、教務委員会に提案し教授会で決定した。なお、留学サポート業務については国際交流センターが行い、学生の留学前準備から留学中の連絡や情報交換の他、帰国後の報告を兼ねた成果発表までトータルな支援を行った。

なお、下記の夏期海外研修プログラムを実施し、成果発表の場として、語学体験、海外での生活体験についての報告会をかねてスピーチコンテストを行い報告書を作成している。

【表 16：平成 28 年度海外研修プログラム】

	期	間	参加人数(名)
韓国語学研修	8 月 1 日	～ 8 月 13 日	8
ニュージーランド研修	8 月 20 日	～ 9 月 11 日	6
アメリカ NPO 研修	9 月 7 日	～ 9 月 20 日	1

### (2) 今後の課題

LE0 科目のレベル別クラスでは、レベル 1 のクラス在籍者が多く、上級レベルのクラス履修者は少数である。今後は上級レベルの受講者を増やす対策を考えたい。

また、海外留学研修は短期大学の修学年限の関係上、短期プログラムへの参加が主となっているが、今後は半年程度の長期留学の希望者も受け入れられるようなカリキュラムの

工夫や、英語教育を前面に出して学生をグローバル人材として教育していく具体案の検討の必要がある。加えて、報告書の作成やスピーチコンテストの実施は、海外研修参加者数の拡大を主旨としたものであるが、在学生のオーディエンスが皆無に等しいのは非常に残念であり、今後は特に1年生の参加者の確保につとめるような施策を図りたい。

## 8. FD 活動

### (1)平成 28 年度の取り組み

FD 活動は「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法」として授業改革に資する施策を主に FD 委員会の専任教員 4 名と職員で立案し運営実施している。平成 28 年度は「地域連携を目指した PBL 型課外学習の推進に関する研究」「学生の学習意欲向上を目指した PBL 型課外学習の実施と検証の研究」の学生の実践教育と、教員セミナー「アクティブ・ラーニングの活用について 2」を実施した。

まず「地域連携を目指した PBL 型課外学習の推進に関する研究」については、就業力育成へ向けた取り組みとして、昨年に引き続き(1)地域連携、(2)課外活動の充実、(3)学生の教える能力の育成、(4)グループワークの4つが重要と考えている。そこで、近隣地域（伊丹、尼崎、西宮など）の企業、商業施設、福祉施設などに学生グループが赴き、ニーズ調査、事前準備を含め様々なプロジェクトを立案し、実践する中で問題解決能力を育成した。具体的には、高齢者及び障害者施設におけるサポート、公共施設や商店街のポスター・HP の作成、広報活動等のボランティア活動を行った。

#### [主な活動場所]

- ・伊丹市立こぼと保育所
- ・JR 猪名寺駅構内装飾展示
- ・アイ愛センター（障害者施設）
- ・稲野自治会防災訓練（クール稲野 9.11!）
- ・積み木制作（近隣の保育園等に寄付）

継続中の活動もあるが、計画通り実施できた。これらの経験を通して、学生は社会における自分の適性を認識し、自己のキャリア形成や就職への意欲を向上させたと考えられる。

また 11 月には報告会を行い、地域貢献活動に関わっていただいた近隣の方々をご招待し、各自が経験した活動の中での気づきや成果、感想を発表し、地域貢献活動の経験を共有する機会を得るなど成果が認められた。

次に「学生の学習意欲向上を目指した PBL 型課外学習の実施と検証の研究」では、FD 委員会が中心となって、学生の学習意欲向上を目的にしたグループワークに重点を置き、PBL 型課外学習として、学生の能動的な学習のサポートを行った。具体的には、授業の課題や資格取得のための学習など、同じ目的を持った学生が集まり、課題の完成や資格試験の合格などの目標達成のための努力を互いに励ましあいながら続けることにより、学習意欲を

向上させ、一人で解決できない問題も、皆で協力して解決するための能力を育成するというものである。

〔目標とする資格取得〕

色彩検定 2級 3級

簿記検定 3級

「学習プログラム」という形で学生の資格取得のための能動的な学習をサポートした。プログラムの説明会を行った上で、学生の空き時間を実施予定の曜日・時限とした。検定試験の2か月前から、実施予定時限に教室を確保し、FD委員会で資格対策のテキストを購入し準備した。実施日には学生がテキストを持って教室に行き自習した。学習したい学生にとっては自発的かつ計画的な学習を習慣づけることとなった。過去の問題集を自習形式で学習することや担当教員の直前対策講座で受験生のモチベーションが向上し、多数の合格者を出す結果になった。

またFDセミナーは教員研修として平成27年度（平成28年2月開催実施済）につづき、第2回となる大手前短期大学FDセミナーを平成29年2月に開催した。学生の質の向上を目指し教育力を高め、就職に繋げる。

テーマ：「アクティブ・ラーニングの活用について2」授業での実践のために

講師：佐々木英洋大手前短期大学 准教授（教務委員長）

内容：

- ・「受動的学習」から「能動的学習」への転換
- ・ALと学習支援
- ・改めて「なぜアクティブ・ラーニング」？
- ・新学習要領改定案（文科省；朝日新聞より抜粋）
- ・「平成28年度フォーラムA」におけるAL
- ・ALプログラムの総括
- ・大手前学園ラーニング・コモンズレイアウト案
- ・「授業時間外学習」とAL
- ・ALを用いた授業時間外学習

## (2) 今後の課題

地域連携を目指したPBL型課外学習の推進に関する研究」は学生の成長も大きく、今後は大学との連携でより広い視野で地域との連携を模索し、活動の幅を広げたい。

「学生の学習意欲向上を目指したPBL型課外学習の実施と検証の研究」ではより多くの学生が参加しやすいように、昨年に引き続き、年度初めからこのプログラムの告知を徹底

し、多くの参加者を増やし、就職に繋げたい

また、「FDセミナー」での研修は今後もFD委員会と教務委員会と連携をはかり、研修を通じて教室内でのグループ・ディスカッションを含めたいいくつかの方法を授業に導入できることを検討するが、AL法の活用を授業内に限定する必要はなく（もちろん効果的に授業内で実践できれば一番よいが）、授業外学習で学生に自主的に活用させる働きかけということも同時に検討する必要がある。

## 9. 編入学委員会

### (1)平成28年度の取り組み

進学に対する支援として「編入学プログラム」を設け、編入学委員会の教員が指導に当たっている。編入学委員会は専任教員3名と教務課職員で構成され、編入学試験の準備の指導や情報提供、個人相談や面接指導などにあたるとともに、編入学先の大学等の窓口となっている。「編入学プログラム」は入学時に説明会を行い、希望者全員を受け入れるとともに、在学期間中に編入学への進路変更をした場合でも随時対応している。

指導は、授業開講期間の各週の昼休みならびに夏季休業中の数日を利用して行った。

平成28年度の編入学生の総数は17名である。成績優秀者に対し、大手前大学の授業料減免などの優遇措置を学生・保護者に周知したことが、平成27年度6名からの増加に繋がった。

#### 【表17：編入学プログラムの実施内容】

登録者数（平成29年2月1日現在） 2年生16名、1年生14名 計30名

回	開催日	主な内容
1	4月12日	編入学プログラムの概要説明 「志望大学調査書」作成
2	5月10日	個別相談
3	5月24日	大手前大学編入学についてのガイダンス
4	6月14日	他大学・指定校編入学についてのガイダンス
5	6月28日	編入学体験談および先輩との個別相談
6	7月12日	志望大学のオープンキャンパス参加時の諸注意 志望理由書の添削を順次開始
7	7月15日	大手前大学A日程編入学 学内選考(1) 面接指導・志望理由書添削
8	7月22日	大手前大学A日程編入学 学内選考(2) 面接指導・志望理由書添削
9	7月26日	指定校推薦編入学手続き等のガイダンス
10	10月11日	進路相談および志望理由書の添削
11	10月25日	進路相談および志望理由書の添削
12	11月29日	大手前大学B日程編入学 学内選考(1) 面接指導・志望理由書添削

13	12月 2日	大手前大学 B 日程編入学	学内選考(2)	面接指導・志望理由書添削
14	12月 9日	大手前大学 B 日程編入学	学内選考(3)	面接指導・志望理由書添削
15	12月 13日	大手前大学 B 日程編入学	学内選考(4)	面接指導・志望理由書添削

【表 18：平成 28 年度 編入学合格実績】

大学名	総人数 (名)	学部	男子(名)	女子(名)
大手前大学	16	総合文化学部	2	3
		メディア・芸術学部	0	4
		現代社会学部	1	6
追手門学院大学	1	経営学部	0	1
合計	17		3	14

## (2) 今後の課題

2 年生、特に後半になって進路変更等で就職希望から編入学希望になった学生や、逆に、編入学希望であった学生が就職希望に変更するなどの情報を就職指導担当者と情報交換を速やかに行い、各々変更後の指導に当たるようにしたい。

また、編入学志望理由書作成の際に苦慮する学生のためには、早期に文章の書き方の基本指導や、個別の学生面談を行うなどきめ細かい指導の機会を設けたい。

## 10. ボランティア・地域貢献活動

### (1) 平成 28 年度の取り組み

従来から取り組んでいる地域貢献プログラムの実施及び伊丹アピールプランへの参画に加え、今年度は、自己点検・評価活動における新たな取り組みとして、近隣企業から評価員を招き、外部評価部会を開催した。

地域貢献プログラムでは、地域連携を目指した PBL 型課外学習として、5つのプロジェクトにおいて地域貢献活動を行った。

「こぼと保育所」では、保育士の保育補助を行いながら子供たちとのコミュニケーションの取り方や接し方等について経験を積み、「アイ愛センター」では、施設職員の方とともに、障がい者への様々なサポートを行うことによりボランティア精神を養うことができた。

「JR 尼崎駅・猪名寺駅」では、「駅構内のマナー」をテーマに啓蒙ポスターを作成し、駅構内で PR 展示を行い、「稲野自治会防災フェア」では、近隣自治会の方々と協力しながらポスター、プログラムのデザイン制作や防災フェアの運営に参画し、組織における自分の役割、その重要性を認識するとともにコミュニケーション力やチームワーク力、リーダーシップ力を伸ばすことができた。「積み木制作」においては、安全で安心できる園児に優しい積木を学生自ら試行錯誤しながら作成し、完成した積み木を保育園に寄贈した。

学生たちは、これらの活動を通じ、社会貢献の喜びとボランティア精神を養うことができた。11月には地域貢献活動に関わった近隣の方々を招待しての報告会を開催し、学生による活動発表を行った。参加された方々との意見交換も行き、学生の成長に繋がる大きな成果があったものと考えられる。

「伊丹アピールプラン」では、伊丹市都市活力課から協力要請のあった企画に、「地域社会と産業」をテーマにしたゼミナールの学生が参加し始めて今年度で4年目となった。伊丹市からの期待も大きく、PBL活動として大切な機会となっている。伊丹アピールプランとは、市の内外に向けて伊丹市の文化・歴史・産業・産物を広く告知していくための、企画・実施のプロジェクトチームのことであり、本学からは3名の学生が土曜日・日曜日や、夏・冬の長期休暇を活用して参加した。今年度は、本学での大手前学祭コンサートとまちあかりあんどん作りを企画・実施し、多くの市民の方に、いたみ稲野キャンパスの施設の素晴らしさを知っていただく良い機会となった。

学生は、これらの活動を通して年長者との交流・交渉を体験することができ、社会人としての自覚とマナー等を身に付けるとともに、プレゼンテーション能力や問題解決能力を伸ばすことができた。

今年度、新たな取り組みとして、本学との関係性の深い近隣企業4社4名に外部評価員として就任してもらい、外部評価部会を開催した。部会では本学の定める三つのポリシーに基づく教育活動全般について意見交換を行った。本学学生について、どの評価員からも概ね好評価をいただき、地域に密着した本学の取り組みについても好印象を持っていただいているようであった。短大生の特長としては、素直さや仕事内容の吸収力の速さなどで評価が高いが、大学生と比較されることなど就職活動での消極性も感じられるので、自信を持って対処できるような指導が求められるなどの意見があり今後の指導に役立つ成果となった。

## (2) 今後の課題

産官学連携の社会貢献・地域貢献活動が活発化する中、連携先となる企業・自治体等も多岐にわたり、数も増加傾向にある。地域総合科学科としての本学の役割を更に明確にし、活動の活性化・充実化を図るための組織力強化が必要である。これまで短期大学独自に取り組んできた活動に加え、今後新たに進められるであろう取り組みに対し、これまで以上に地域・社会連携室との連携を密接にする必要がある。

また、外部評価の中で指摘のあった短大生の良さを生かした指導を教育内容に反映させる具体案を検討したい。